



251

中学生向け 年組

24年全国移住希望地ランク

本県人気3年連続3位

地方移住を支援するNPO法人「ふるさと回帰支援センター」（東京都）の窓口相談者が選んだ2024年の都道府県移住希望地ランキングで、本県は3年連続で過去最高位の3位だったことが24日までに、分かった。センターは交流サイト（SNS）の広告などを通して20代の相談者が増加したことや、住宅コストが抑えられることなどが人気の要因と分析している。

（稲葉雄大）

20代の相談増加 SNS広告奏功

センターは09年からランキングを公表しており、今回で16回目。24年にセンターが受けた相談件数は4年連続で過去最高を更新し、計6万1720件だった。ランキングは窓口相談者にアンケートを実施し、約1万2千人から回答を得た。1位は23年2位だった群馬県、2位は23年まで4年

連続1位だった静岡県となつた。4位は長野県、5位は福岡県と続いた。

年代別のランキングでは、本県は20代以下と70代

以上で2位、30代3位、40代60代4位に選ばれた。20代以下は23年の7位から大きくランクアップした。

センター内にある本県の移住相談窓口「とちぎ暮らし・しごと支援センター」が受けた24年度の相談件数は25年1月末時点で、既に23年度の1万737件を上回った。県は20〜40代を狙ったSNS広告が一定の効果

※ふるさと回帰支援センターによる

1	群馬	2	静岡県
3	長野	4	福岡
5	北海道	6	宮城県
7	山梨県	8	福井県
9	山梨県	10	山梨県
11	山梨県	12	山梨県
13	山梨県	14	山梨県
15	山梨県	16	山梨県
17	山梨県	18	山梨県
19	山梨県	20	山梨県

を上げたとみている。県は24年度、オーダーメイド型の現地案内を行う

「移住促進コンシェルジュ」を配置し、相談者のニーズにきめ細かく応じる体制を整備した。移住につながった事例もあるという。今後は居住環境について空き家バンクと連携した情報発信にも取り組んでいく考え。

県地域振興課の担当者は「子育て環境や住宅コスト面など、移住先としての魅力をより多くの人に発信したい」と話した。

設問

【1】記事の本文で使われている次の漢字の読み方を答えましょう。

①回帰 ②既に ③連携 ④振興

【2】アンケートを行なった「ふるさと回帰支援センター」はNPO法人であるが、NPOとは何だろうか。説明してみよう。初めて聞いた人は調べてみよう。

【3】この記事から分かる情報として正しいものには○を、間違っているものには×を書きましょう。

- ア センターが受けた相談は計6万件超えと過去最高を記録したが、これはSNSの広告を通して20代の相談件数が増加したためである。
- イ センターは09年から毎年ランキングを発表しており、昨年と今年とで、最上位の3県の顔触れは変わっていない。

- ウ 栃木県の人気は全年代層で上位にランクインしており、とくに若年層からの人気上昇している。
- エ 栃木県は20代〜40代をターゲットにSNS広告戦略を展開しており、栃木への移住人気の高まりに一役買っている。
- オ 栃木県は移住先としての魅力を上げるため、空き家バンクなどとも連携し、住宅コストの上昇に取り組んでいくとしている。